笘廣　啓史（とまひろひろし）

高 17 期
JICA 海外協力隊(タイ王国派遣)
同窓会会長

登美丘高校在学中に社会科の教員になろうと決め、とりわけ 3 年間の担任の先生には大変お世話になった。先生から「社会科の教員を目指すなら、歴史や公民の専門の人は多いけど、地理は少ない」という助言をいただき、もともと好きであった地理に進むことにした。そうしたこともあって卒業後は研究会、仕事、観光等の機会に全国を回り、在職中に 47 都道府県を複数回の訪問ができた。

海外では朝鮮半島と東南アジア、とりわけタイとラオスに興味・関心があり、教員としての最後は、タイかラオスで仕事がしたいと思うようになり、日本人学校も考えたが、現地の人に関われる JICA(国際協力機構)を選び、定年まで 2 年残して受験した。

派遣先は首都バンコクから約 500 km離れ、ラオス国境にも近いイサーン地方と呼ばれるタイ東北部、マハサラカム県のラジャパット大学に、ラジャパット大学は国立の教員養成大学で日本と同じように概ね各県にある。60 歳近くなってのタイ語の勉強、しかし、現地に行くと、住民の半数近くがラオ民族、地域に入ると言葉もタイ語よりラオ語に近く、JICA やバンコクで学んだタイ語はあまり役立たない、とりあえず一人で活動と生活ができるようにと必死でやるしかなかった。

活動内容は特別支援教育で①大学付属の支援センターに来る障害のある 3 歳～22 歳の児童・生徒の授業の支援、②障害のため登校できない子どもの家庭訪問、③学生への講義等であった。①は月～水曜日、②は木・金曜日、③は適宜という形であった。また、活動のない日もあり、近隣県の日本人不在の高校の日本語の授業の支援に行ったり、県内の農家の集まりや教育集会等に参加した。

帰国後は定年前にせっかく仕事を退職したこともあり、国際協力、国際支援の活動をしようと決めていた。現在は KOCA(京都海外協力協会)やタイ、ラオスの友好・交流・支援の活動を行うとともに、できるだけの国(主に途上国)に行ってみたいと思っている。

近年は、海外に興味を示さない若者も多いと言われるが、登美高生は是非、世界に目を向け羽ばたいて欲しいと願っている。

■プロフィール

1950 年 11 月　堺市生まれ

1969 年　3 月　登美丘高校卒業

1973 年　3 月　立命館大学文学部卒業（地理学専攻）

1973 年　4 月～2009 年 3 月　京都府内　小学校、中学校、養護学校勤務

2009 年　7 月　JICA(国際協力機構）シニアボランティア　タイ王国　マハサラカム・ラジャパット大学派遣(特別支援教育担当）

2012 年　4 月～2016 年 3 月　長岡京市教育支援センター勤務

2012 年　5 月　京都海外協力協会(JICA 海外協力隊 OV 会)の活動に参加

2016 年　6 月　登美丘高校同窓会長